

桑名駅周辺地区整備構想（概要版）

1. 桑名駅周辺地区の位置付け

（１）桑名市総合計画【2015-2024】

■基本理念・・・本物力こそ、桑名力。

～“本物”であふれる桑名市へ～

■桑名市の将来像を実現するための7つのビジョン

⑤地理的優位性を活かした元気なまち

⑥桑名をまちごと「ブランド」に

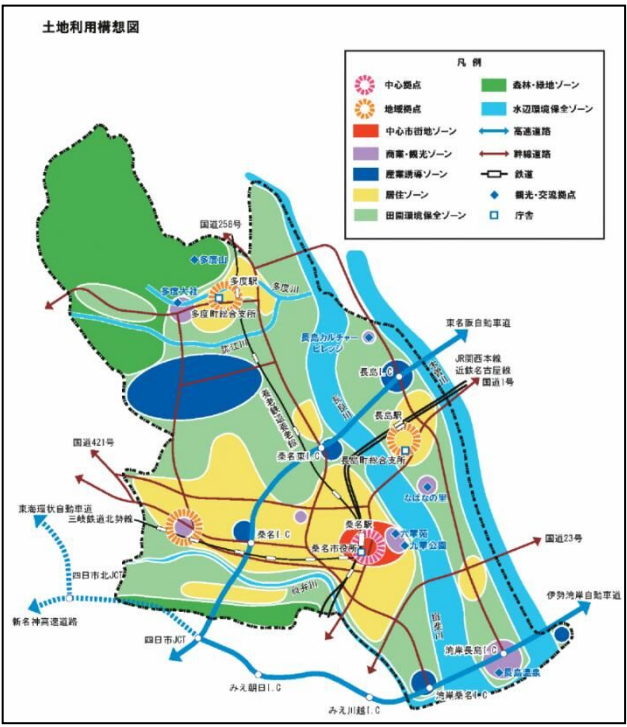
■中心市街地ゾーンと中心拠点（土地利用構想）

◎中心市街地ゾーン

桑名駅の東西に形成されている市街地を中心市街地として位置付け、各種都市機能の集積を図り、内外から人が集まる賑わいと活力ある拠点づくりを進めます。

◎中心拠点

交通結節点である桑名駅周辺を中心拠点として位置付け、コンパクトな都心を目指すため、機能の再構築を図ります。



基本計画（目指す姿を実現するために）

➤コンパクト 便利ですてきな まちづくり

- ・桑名地区の玄関口である桑名駅周辺では、都市基盤や交通結節点としての整備を進めます。また、都市機能の再構築による持続可能な都市をめざします。
- ・歴史的、文化的資源を活用した集客・交流機能の整備などを進め、安心して誰もが暮らせ、訪れたいくなるコンパクトシティをめざします。

➤美しく みんなが住み良い まちづくり

- ・桑名のまちなみをはじめとする都市デザインを桑名ブランドとして誇れるよう、関係機関と取り組みを進めます。
- ・歩行者空間をはじめ、公共施設などにユニバーサルデザインを取り入れ、人にやさしいまちづくりを進めます。

（２）桑名市立地適正化計画

■将来都市像・・・快適な暮らしを次世代にも誇れるまち

■まちづくり方針

基本的な方針（桑名市が目指す都市構造）

- ①歴史や文化を継承し、桑名駅を中心に交通結節点の機能が強化され、都市機能の集積やまちなか居住により中心市街地が一体となり活性化する都市構造
- ②鉄道やバス路線などの公共交通が維持され、交流が促進される都市構造
- ③歩いて行ける範囲に生活サービス施設（商業施設、医療福祉施設等）が立地し、皆が健康に暮らすことができる都市構造
- ④地域行事への参加や趣味の活動等を通じて地域コミュニティが育まれ、誰もが居場所のある都市構造
- ⑤都市基盤や都市機能等の既存ストックが有効に活用される都市構造
- ⑥地震、津波、がけ崩れ等の災害から人の命を守ることを最優先とする都市構造

（３）桑名市都市総合交通戦略

■都市交通体系の方針

コンパクトなまちづくりを支援・誘導する都市交通体系の方針

1. 鉄道やバス（幹線）を軸に、バス（支線）、タクシー等多様な交通手段が一体となって機能する公共交通ネットワークを形成、北勢線は住宅団地から拠点駅（星川駅等）へのアクセス利便性や乗継ぎ機能を強化、養老線はまちづくり計画や観光振興と連携した2次交通を充実
2. 新病院の整備に合わせたバス路線の再編、中心市街地との関連が希薄な大山田団地等と連絡する公共交通サービスを充実
3. 都市・地域・生活の各拠点内では、歩いて暮らすことを基本としつつ、地域住民が参画する中で、安全かつ安心に移動できる交通環境を創出
4. 主要な幹線道路の交差点や踏切部等に存する主要渋滞個所を緩和・解消し、円滑かつ快適な自動車走行環境を確保

2. 桑名駅周辺地区における課題の整理

項目	整備計画上の課題
コンパクトシティの実現	○人口減少や少子高齢化社会に対応するため、病院や福祉施設等の医療環境と商業施設等のにぎわい環境を駅周辺に集め、コンパクトシティの実現に取り組む必要がある。
桑名ブランドの推進	○桑名市の魅力を県内外ひいては海外に向けて発信できるようなブランド力を駅周辺整備に活かし、魅力あふれる空間とする必要がある。
中心市街地への回遊性 サンファアーレとの接続	○交通結節点としての機能が優れている桑名駅周辺から、中心市街地へと来訪者を誘導する回遊性ルートを検討する必要がある。また、既設のサンファアーレとの接続機能を維持することがもとめられる。
駅東西の交通機能分担	○駅東西の交通機能の役割分担を明確にする必要があり、その上で、東西駅前広場のあり方（機能配置）を検討する必要がある。 ⇒公共交通の考え方、一般車利用状況の整理が必要。
駅舎・駅前広場の デザイン統一	○自由通路整備に伴い、JR 駅舎及び近鉄駅舎を整備する際、全体的に統一されたデザインにする必要がある。 ⇒統一されたデザインコードを用い、桑名市のブランドイメージに即した景観形成を行う必要がある。
駅周辺の高度利用	○桑名駅周辺地区が持つ地理的優位性により、将来的に地価価値が上がる可能性が高いため、駅周辺の高度利用を促進し、活性化を図る必要がある。 ⇒都市機能を駅周辺に集積させることにより、民間誘導を含めた高度利用の促進を進める。
民間開発の誘導	○桑名駅周辺への都市機能の集積により、にぎわいと活力ある中心拠点を形成するためには、民間主導による開発を誘導する必要がある。
三岐鉄道西桑名駅 乗継円滑化・バリアフリー化	○自由通路の整備により、乗継距離は短縮されるが、現在の西桑名駅舎はバリアフリー未対応である。（現状、車いす利用者は改札を通過せず、ホーム北側より出入り。）
中心拠点誘導施設の整備	○市民生活を豊かにするため、商業機能、子育て支援機能、高齢者支援機能を備えた中心拠点誘導施設を整備する必要がある。

桑名駅周辺地区整備構想（概要版）

6. 桑名駅周辺地区の整備方針(案)

（１）交通結節機能 ～安全性・利便性に配慮した交通～

◎安全で便利な交通広場

駅利用者の利便性・安全性の向上を図るため、交通広場機能を高めるとともに、自動車の交通流の整理や公共交通と一般車の分離などの交通広場の再編、観光バスや送迎車等の乗降スペースなどの交通結節機能を強化する。

駅周辺地区の対象者別利用のイメージ	
市民（日常利用）	鉄道の利用（乗継ぎ）、バスの利用（乗継ぎ）、タクシーの利用、Kーバスの利用、一般車の送迎利用、駐車場・駐輪場の利用
観光客（来訪者）	鉄道の利用（乗継ぎ）、バスの利用（乗継ぎ）、観光バスの利用、送迎バスの利用、タクシーの利用、駐車場の利用
整備方針（案）	
・地上部における交通広場の再編 ・自由通路と同じデッキレベルにおける安全 ・安心な歩行者用通路の整備 ・三岐鉄道西桑名駅との一体的整備 ・駅利用者等のための駐車場の整備 ・その他多様な交通機能の導入 など	

（２）シンボル機能 ～まちなかの魅力を高める都市機能の集積～

◎「桑名市の顔」となるシンボル空間

駅前には、都市の顔となるシンボル空間として、市民が憩い、集まり、交流ができるイベント広場（オープンスペース）や観光交流拠点となる機能、商業機能、宿泊機能（ホテル）などの核となる都市機能を集積させる。

駅周辺地区の対象者別利用のイメージ	
市民（日常利用）	イベント広場（お祭り）、飲食・休憩（レストラン・カフェ）
観光客（来訪者）	宿泊（ホテル）、観光案内所の利用、物産販売所の利用、飲食（レストラン・ご当地グルメ）、商談・会合
整備方針（案）	
・ペDESTリアンデッキの整備 ・来訪者をもてなすホテルの整備 ・観光案内所、物産販売所の整備 ・駅、オープンスペースと一体となった、にぎわいを創出する商業施設の整備 など	

（３）居住機能 ～中心地区の居住人口の増加～

◎駅と直結した居住空間づくり

急速に進む高齢化社会に対して、誰もが安心して歩いて暮らせるまちづくりを実現するためには、自動車を必要としない、駅と直結した居住空間の提供などが求められる。

駅周辺地区の対象者別利用のイメージ	
市民（日常利用）	住宅（分譲・賃貸）、高齢者住宅等
整備方針（案）	
・コンパクトシティ実現に向けて、まちなか居住を推進するための優良な住宅供給 など	

（４）生活利便機能 ～快適で過ごしやすい生活環境を整備～

◎市民の利便性を高める生活利便施設

快適な日常生活をめざし、商業施設を始めとして、子育て支援施設（子育て支援機能）や高齢者支援施設（高齢者支援機能）などの生活利便施設を駅周辺に集積することにより、利便性・快適性を高める。

駅周辺地区の対象者別利用のイメージ	
市民（日常利用）	子育て支援施設の利用、高齢者支援施設の利用、生活利便施設の利用、行政窓口機能、駅前交番
整備方針（案）	
・子育て支援施設等の福祉施設の整備 ・生活利便施設の整備 ・駅前交番の機能維持 ・公衆トイレの整備 など	

（５）桑名ブランドの推進 ～“本物”を見せる仕掛けづくり～

◎桑名の“本物”を見せる仕掛けづくり

ユネスコ無形文化遺産に登録された石取祭や、全国でも唯一、4社の鉄道と3種類のゲージが見られることなどに焦点を当て、桑名の“本物”を見せる仕掛けづくりや情報発信を行う。

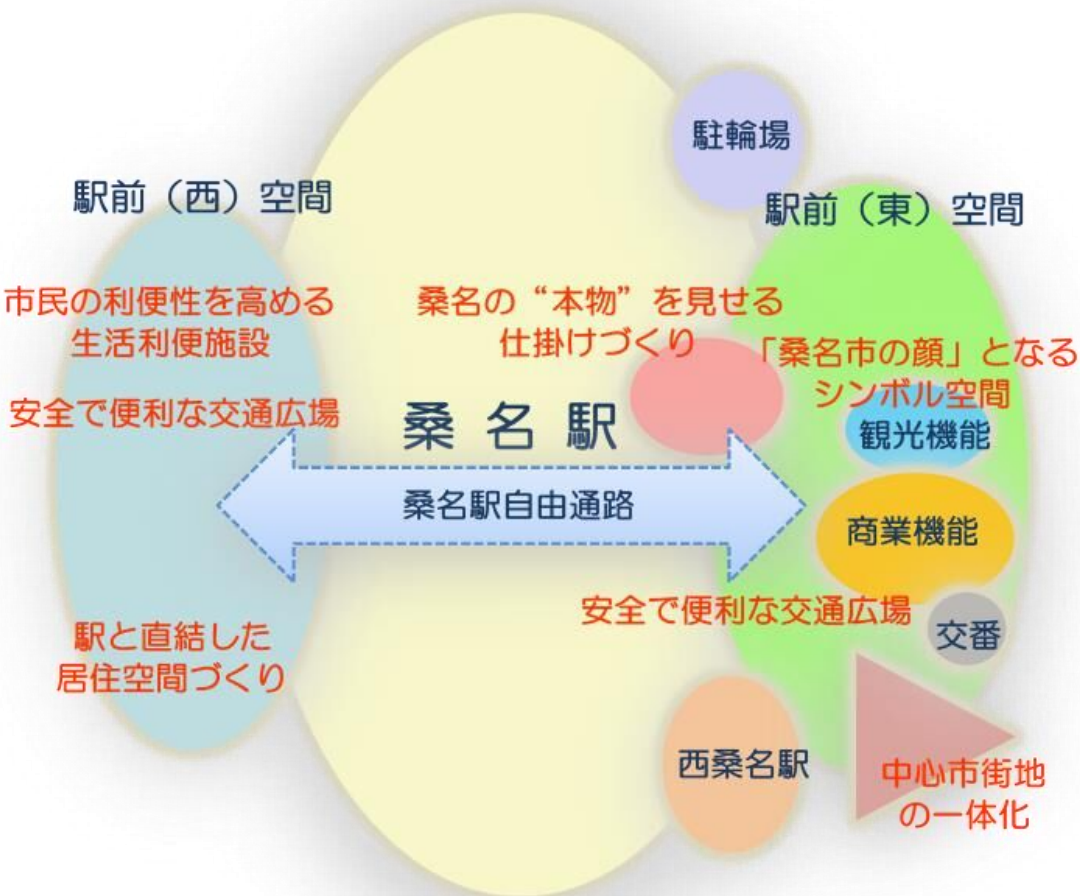
駅周辺地区の対象者別利用のイメージ	
市民（日常利用）	4社の鉄道と3種類のゲージの案内、「石取祭」の案内、展示
観光客（来訪者）	
整備方針（案）	
・三岐鉄道、各種ゲージの見える化 など	

（６）中心市街地への回遊性

◎中心市街地の一体化

旧城下町や医療センターなどの都市機能が集積する中心市街地を結ぶ歩行者空間の整備などにより一体化を図る。

駅周辺地区の対象者別利用のイメージ	
市民（日常利用）	医療センターへの移動、サンファールとの接続、周辺施設との接続
観光客（来訪者）	中心市街地（旧城下町）へ回遊
整備方針（案）	
・桑名駅から医療センターへの安全な歩行者空間の整備 ・サンファール等、周辺施設との接続、回遊性の確保 など	



桑名駅周辺地区の機能配置イメージ